

# 基礎研 レター

## 図表でみる世界の GDP 日本が置かれている現状と世界のトレンド

ニッセイ基礎研究所 客員研究員 三尾 幸吉郎

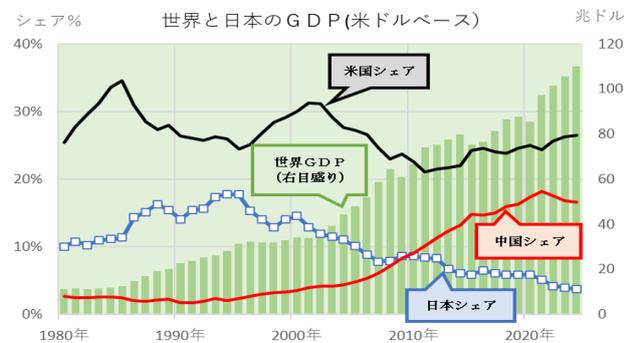
### 1——日本が置かれている現状

GDP（国内総生産）は世界の勢力図を概観する上で最も重要な指標と言って良いだろう。GDP が大きければ、それ自体で関係各国への経済的な影響力は大きくなるし、国家の防衛予算を決めるに際しても GDP 比を参考にするため、軍事力も GDP の大きさに比例する面がある。国家の研究開発費を決めるに際しても同様に、GDP 比を参考にするため、科学技術力も GDP の大きさに応じて決まる面がある。

国際通貨基金（IMF）が公表した予測値を見ると、日本の 2024 年の GDP は約 4 兆ドルで、世界におけるシェアはじりじりと低下してきており、現在は 3.7% となっている（図表-1）。米国は約 29 兆ドル（シェア 26.5%）と上昇傾向を維持しており、2010 年に日本を上回った中国は約 18 兆ドルと日本の約 4.5 倍になったものの、そのシェアは 2021 年をピークに低下し始めており、現在は 16.6% となっている。そして日本が置かれている経済、軍事、科学技術の環境はそれに伴って変化してきている。

他方、GDP を人口で割り算した一人当たり GDP を見ると（図表-2）、日本は中国と比べると 2.5 倍くらい水準にあるが、米国と比べると 4 割弱にとどまる。10 年余り前までは、日本と米国がほぼ同水準で推移していたので、この 10 年ほどの間に日米の豊かさに大きな変化があったことがわかる。

図表-1



(資料) IMFのデータを元に筆者作成、2024年は予測値

図表-2



(資料) IMFのデータを元に筆者作成、2024年は予測値

## 2—国・地域別に見たランキング

ここで世界各国・地域の GDP をランキング形式で確認してみよう（図表-3）。最初に左の列に掲載した GDP（米ドルベース）のランキングを見ると、1位は米国、2位は中国、3位はドイツで、日本は4位となっている。次に中央列に掲載した一人当たり GDP（米ドルベース）のランキングに目を転じると、ここもこの円安もあって、日本は主要先進国（G7）の中で最下位の39位にとどまっている。GDPを人口で割り算しているため、人口の少ない国・地域が上位に来る傾向があるとは言え、韓国や台湾よりも下に位置している。

最後に右の列に掲載した GDP（国際ドルベース）のランキングを確認しておこう。国際ドルとは、ある基準年において米ドルが持っていたのと同じ購買力平価を示す仮想的な通貨単位のことと、誤解を恐れずに言えば、米国でビッグマックを買うと1ドルのとき、日本でビッグマックを買うと150円なら、1国際ドル=150円という風に計算するものである。その国際ドルベースの GDP ランキングを見ると、1位は中国、2位は米国、3位はインド、4位はロシアで、日本は5位である。中国、インド、ロシア、ブラジル、南アフリカといった新興国・途上国のシェアが米ドルベースよりも大きくなる一方、米国、日本、ドイツ、フランス、英国、イタリア、カナダといった先進国のシェアは小さくなる。

図表-3 国・地域別の GDP ランキング（2024年、予想値）

GDP（米ドルベース）の国・地域別トップ40

順位	国・地域名	金額 (兆米ドル)	世界シェア
1	米国	29.17	26.5%
2	中国	18.27	16.6%
3	ドイツ	4.71	4.3%
4	日本	4.07	3.7%
5	インド	3.89	3.5%
6	英国	3.59	3.3%
7	フランス	3.17	2.9%
8	イタリア	2.38	2.2%
9	カナダ	2.21	2.0%
10	ブラジル	2.19	2.0%
11	ロシア	2.18	2.0%
12	韓国	1.87	1.7%
13	メキシコ	1.85	1.7%
14	オーストラリア	1.80	1.6%
15	スペイン	1.73	1.6%
16	インドネシア	1.40	1.3%
17	トルコ	1.34	1.2%
18	オランダ	1.22	1.1%
19	サウジアラビア	1.10	1.0%
20	スイス	0.94	0.9%
21	ポーランド	0.86	0.8%
22	台湾	0.78	0.7%
23	ベルギー	0.66	0.6%
24	スウェーデン	0.61	0.6%
25	アルゼンチン	0.60	0.5%
26	アイルランド	0.56	0.5%
27	アラブ首長国連邦	0.55	0.5%
28	オーストリア	0.54	0.5%
29	シンガポール	0.53	0.5%
30	タイ	0.53	0.5%
31	イスラエル	0.53	0.5%
32	ノルウェー	0.50	0.5%
33	フィリピン	0.47	0.4%
34	ベトナム	0.47	0.4%
35	バングラデシュ	0.45	0.4%
36	マレーシア	0.44	0.4%
37	イラン	0.43	0.4%
38	コロンビア	0.42	0.4%
39	デンマーク	0.41	0.4%
40	南アフリカ	0.40	0.4%

一人当たり GDP（米ドルベース）  
の国・地域別トップ40

順位	国・地域名	金額 (米ドル)
1	ルクセンブルグ	135,321
2	スイス	106,098
3	アイルランド	103,500
4	ノルウェー	90,434
5	シンガポール	89,370
6	米国	86,601
7	アイスランド	85,787
8	マカオ	77,186
9	カタール	71,568
10	デンマーク	69,273
11	オランダ	67,984
12	オーストラリア	65,966
13	サンマリノ	59,841
14	オーストリア	58,669
15	スウェーデン	57,213
16	ベルギー	56,129
17	ドイツ	55,521
18	フィンランド	54,774
19	カナダ	53,834
20	香港	53,165
21	イスラエル	53,111
22	英国	52,423
23	アラブ首長国連邦	49,550
24	フランス	48,012
25	ニュージーランド	47,072
26	アンドラ	45,279
27	マルタ	44,140
28	イタリア	40,287
29	アルバ	39,697
30	プエルトリコ	37,926
31	キプロス	37,767
32	バハマ	36,322
33	韓国	36,132
34	スペイン	35,789
35	ブルネイ	34,872
36	スロベニア	34,544
37	台湾	33,234
38	サウジアラビア	32,881
39	日本	32,859
40	クウェート	32,290

GDP（国際ドルベース）の国・地域別トップ40

順位	国・地域名	金額 (兆国際ドル)	世界シェア
1	中国	37.07	19.1%
2	米国	29.17	15.0%
3	インド	16.02	8.2%
4	ロシア	6.91	3.6%
5	日本	6.57	3.4%
6	ドイツ	6.02	3.1%
7	ブラジル	4.70	2.4%
8	インドネシア	4.66	2.4%
9	フランス	4.36	2.2%
10	英国	4.28	2.2%
11	イタリア	3.60	1.8%
12	トルコ	3.46	1.8%
13	メキシコ	3.30	1.7%
14	韓国	3.26	1.7%
15	スペイン	2.67	1.4%
16	カナダ	2.58	1.3%
17	エジプト	2.23	1.1%
18	サウジアラビア	2.11	1.1%
19	オーストラリア	1.90	1.0%
20	ポーランド	1.89	1.0%
21	台湾	1.84	0.9%
22	タイ	1.77	0.9%
23	イラン	1.70	0.9%
24	バングラデシュ	1.69	0.9%
25	ベトナム	1.63	0.8%
26	パキスタン	1.58	0.8%
27	ナイジェリア	1.49	0.8%
28	オランダ	1.46	0.8%
29	マレーシア	1.37	0.7%
30	フィリピン	1.37	0.7%
31	アルゼンチン	1.35	0.7%
32	コロンビア	1.13	0.6%
33	南アフリカ	0.99	0.5%
34	ルーマニア	0.89	0.5%
35	シンガポール	0.88	0.5%
36	ベルギー	0.86	0.4%
37	スイス	0.85	0.4%
38	アラブ首長国連邦	0.85	0.4%
39	カザフスタン	0.83	0.4%
40	アルジェリア	0.83	0.4%

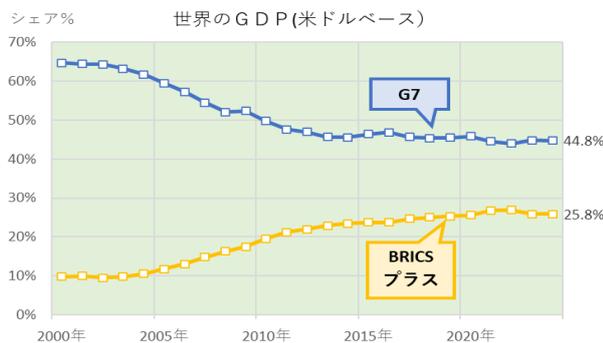
（資料）IMF の予想値を元に筆者作成

### 3—G7とBRICS プラスの比較

最後に、世界で指導的立場にある主要先進国（G7）と、ここもと世界で存在感を高めつつある主要途上国（BRICS プラス）の GDP を比較してみよう。まず米ドルベースで見た GDP のシェアを見ると（図表-4）、G7 のシェアは四半世紀前（2000 年）には約 65% だったが、2024 年（予測値）には 44.8% まで低下している。一方、BRICS プラスのシェアは約 10% から 25.8% まで上昇した。次に国際ドルベースを見ると（図表-5）、四半世紀前（2000 年）に約 45% だった G7 のシェアは 2024 年（予測値）に 29.1% まで低下した。一方、BRICS プラスのシェアは約 20% から 36.4% に上昇、G7 を上回っている。

両者が異なる背景には、BRICS プラスの通貨が購買力平価より概ね割安なことがある。それが BRICS プラスにとっては、輸出競争力を高めたり、観光業を振興したりする利点があるのに加えて、G7 にとっても輸入価格を押し下げ、インフレを抑制する利点があるため、ある種の均衡状態となっているのだ。ただし、BRICS プラスにとっては、G7 からの輸入品が値上がりしインフレ気味になるという欠点もあり、G7 にとっても、輸出品の値上がりで競争力を失い、製造業が衰退するという欠点もある。したがって、こうした欠点の方に世界の注目が集まる展開になった場合、1985 年に起きたプラザ合意のような通貨の水準訂正が起きる可能性があると見ておくべきだろう。特に米国で次期大統領に就任するトランプ氏は、「製造大国の復活」を公言しているだけに、今後の成り行きを注視していきたい。

図表-4

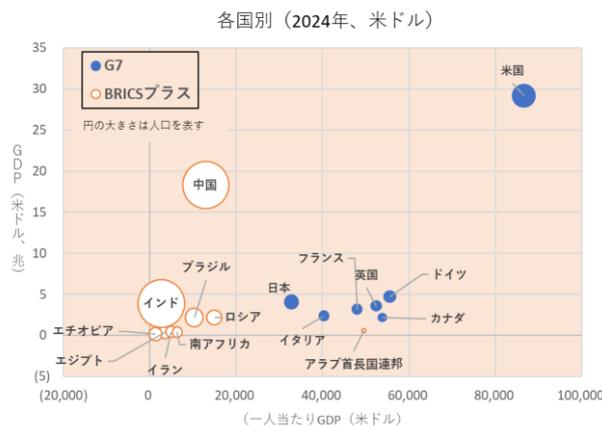


(資料) IMF のデータを元に筆者作成、2024 年は予測値

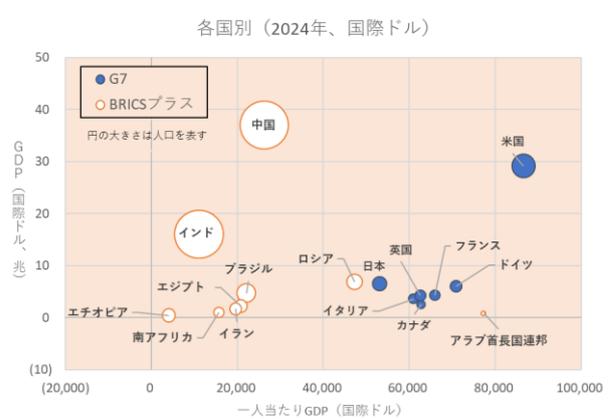
図表-5



(資料) IMF のデータを元に筆者作成、2024 年は予測値



(資料) IMF の予測値を元に筆者作成



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。